

お元気ですか

南 恵子

です

ニュースを読んでご
意見をお寄せ下さい。

区議会議員

南 恵子

TEL 3790-1523



発行責任者 **日本共産党品川区議会議員 南 恵子** 八潮5-12-65-503

メールアドレス **minami@jcp-shinagawa.com**

震災時の 火災予防の必需品

感震ブレーカー設置助成が実現

木造密集地域に住んでいる区民対象ではじまる 拡大めざします

共産党が以前から要望していた感震ブレーカー整備の助成制度が実現しましたので、その内容を報告します。なお、対象は狭い範囲なので、区内全域に拡大するよう引き続き求めます。

通電火災をなくす

区が助成制度をつくることとした目的は、阪神淡路大震災や東日本大震災などでは発災直後に火災が発生したこと、その原因は停電していた電気を通すことで火災になったことでした。

それを教訓にして、通電しても火災を抑えるために、開発された感震ブレーカーを整備する必要があるとして助成制度をつくりました。

大きな揺れを感知したら自動的に電気を遮断する感震ブレーカーは重要な対策の一つです。

対象地域を限定せず 全域対象に

助成は大歓迎ですが、問題は対象地域を狭めていることです。

木造密集地域不燃化10年プロジェクトの不燃化推進特定整備地区（放射2号及び補

助28・29号線沿道地区は除く）のみが対象です。

区内には対象地区以外にも木造住宅はたくさんありますので、対象地区を指定せず全地区に拡大するべきです。

助成金総額は510万円

この助成は2種類あります。

- ①対象地区内に既に住んでいる方。費用の3分の2を助成（上限5万円） 100件
- ②対象地区内に住宅を新築しようとする方。1万円を補助。10件

予算額は、①、②合わせて510万円です。

大震災が起き、火災が発生したら大きな被害になりますので、年次計画を立ててすべての木造住宅を対象にして実施するべきです。今年度は

初めての予算化ですので、引き続き取り組みます。



イメージです

呆れた舛添都知事 正月の家族旅行に政治資金を支出

マスコミでも厳しく追及している舛添え東京都知事の政治資金不正使用疑惑。公用車で毎週末に別荘通いなどを指摘されると「動く公用車」などと言っていました。議会で追及されると「別荘を売却する」と答弁。都民がなぜ怒っているのかがわかっていないようです。呆れたのは、正月の家族旅行に「仕事」を理由に政治資金を支出

疑惑のすべてを明らかにし辞職を——と共産党迫る

「第三者にゆだねる」として知り合いの弁護士が調査して出てきた報告書は、「知事の言い分を鵜呑みにしたもの」で、事実かどうかの検証も裏付け調査もされていませんでした。共産党は「知事弁護のための報告書」と批判しました。

政党助成金を含んだ政治資金を、家族旅行や飲み食い、日用品などまでに使う公私混同ぶり。南が特に呆れたのは、正月に行った家族旅行。正月という時期にしかも家族旅行に「仕事」を入れるでしょうか。家族サービスではなくってしまいません。知事は、誰が考えてもおかしいと思うような説明で、言い逃れられるとでも思っているのでは

うか。道義的にも許せません。知事は、全容を明らかにして辞職するべきです。

都議会の責任も重大

100条委員会設置を

知事が、平身低頭して言い逃れできると考えているのなら、議会は責任をしつ

かり果たすよう共産党都議団が提案している100条委員会を設置して、きちんと説明させるべきです。その責任を自民・公明など他党も認識して取り組んでほしいものです。

品川区議会のリオオリンピック視察

6月8日のオリンピックパラリンピック特別委員会

日に予定されていますが、翌日からの本会議準備の議題が中心です。

で、南は、未だに明らかにされないでいるブラジルのリオ・オリンピック視察費用の内訳について、区の理事者に説明を求めたいと委員長に申し出ました。

南は、渡部委員長から議会運営委員長に議題に取り上げ、視察に出発する前に航空代金、宿泊費をはじめ、すべての経費を明らかにするよう求めました。

すると、自民党の渡辺委員長（視察に参加する）は、「この委員会は議論する場ではない。議会運営委員会でやること」といつて南に質問させませんでした。

東京都知事の金の使い方に多くの怒りが広がっている時だからこそ、区民に理解されるよう努める責任が議会と議員にあります。

議会運営委員会は6月22